



MieTLO

MIE TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION

三重 T L O 技術情報クラブ会報

No. 4 2003 年 6 月

CONTENTS

三重大学地域共同研究センターをめぐる昨今の状況	1	営業報告	5
研究室紹介	2	第3回 T L O 交流会	6
会員企業紹介	3	メディカル研究会報告	7
産学連携コーディネータ活動経過	4	技術移転および特許情報, 行事等案内	8

三重大学地域共同研究センターをめぐる昨今の状況

三重大学地域共同研究センター
副センター長 菅原 洋一

はじめに

三重大学地域共同研究センターは、三重 T L O と協力して、三重大学と社会の連携を進める役割を担っています。三重 T L O が設立され、このような体制が動き出して、一年余りが経過しましたが、今日、大学と社会の連携を廻る状況は更に大きく変わろうとしています。このための対応として、三重大学全学と地域共同研究センターが行っている取組みの一端をご紹介します、皆様のご理解をお願いする次第です。

1. 大学の知的財産の機関帰属への移行

第一の大きな変化は、平成 16 年度に予定されている大学の国立大学法人への移行に伴って、特許の扱いが大きく変わることです。大学教官の発明は、現在は学内の発明委員会で、その権利の帰属について判断され、殆どの場合、教官個人に帰属するものとなっています。三重 T L O も、教官帰属となった発明について、教官個人から T L O が譲渡を受け、これを権利化するとともに企業に移転する事業形態を取っています。

しかし、法人化以後は、特許を受ける権利は、原則的に大学に帰属することになります。大学にはこれに伴って、大学の知的財産を権利化、維持、管理、活用する責務が生じ、このための体制づくりが急務となっています。三重大学ではこのため、本部機構として知的財産統括室を新設し、大学としての戦略のもとで、知的財産の維持管理活用を行う体制を整備しようとしています。特に活用については、三重 T L O との連携を一層深め、三重 T L O に実務を担当いただく方向で検討が行われています。

2. 地域連携推進室の新設

地域連携推進室は、三重大学と地方公共団体の

間の連携協力の戦略を立て、大学と地域の連携型プロジェクトを行う本部機構で、本年 3 月に整備されました。今年度は三重県と三重大学との企画による 8 テーマの連携プロジェクトが、文部科学省の地域連携特別支援事業に採択されており、そのプロジェクトの運営が地域連携推進室の初仕事になります。

これまでの三重大学における社会連携は、地域共同研究センターと三重 T L O を両輪として進められてきました。今後はこれに知的財産統括室(予定)、地域連携推進室の 2 室が加わった、4 輪駆動システムでの動きとなります。地に足のついた力強い動きで、三重を元気にしていきたいと考えております。

3. 地域共同研究センターから創造開発研究センターへ

地域共同研究センターはこれにあわせて、創造開発研究センターとして、新たな体制に移行する構想を持っています。これは地域共同研究センター、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーと、今年度設置が認められ地域共同研究センターに隣接して建築工事中のインキュベーション施設が、それぞれ固有の課題に取り組みつつ、大きくネットワーク化するものです。

これによって、大学が研究によって社会に貢献するために不可欠な連携開発、研究開発、インキュベーションの 3 機能が有機的に結合されることとなります。このため、基礎的研究から応用研究、実用化研究、ベンチャー起業や技術移転と、様々な段階にある大学の研究を、産学官の連携によって発展させていくことや、産学官が結集した地域課題への総合的な取組が従来に増して進展するものと考えています。この構想の実現には、関係各方面のご理解ご支援を要するものです。地域共同研究センターはこのために最大限の努力を払って参りますが、皆様にもご理解ご支援をお願いする次第です。

◆ 研究室紹介 ◆

三重大学工学部機械工学科 環境エネルギー講座
流動現象学研究室

教授 社河内敏彦 助教授 辻本公一
助手 安藤俊剛

研究課題

本研究室では、流体力学、熱力学、混相流力学、計測・制御工学などを基礎に、主に、流体工学、熱工学、環境エネルギー問題に関連した事象を理論的、実験的な解析と数値シミュレーションにより研究している。

主な研究テーマは以下のようなものである。

1. 流動、伝熱およびその制御

幅広い工業的な流体、熱機器・設備で生じている、あるいは利用されている、噴流（ジェット）、せん断流、および流体関連振動に関する研究

- ・急縮小円管内の流動と制御
- ・至近距離で平板に衝動する二噴流の干渉
- ・オリフィス・共鳴噴流の流動・伝熱特性
- ・ジェットポンプの性能向上に関する研究

2. 混相流（気液・固気二相流）、噴流

多くの先端工業用材料が持つ形態である粉体、微粉粒子のジェット粉砕、气流分級、および水処理、伝熱機器内部に存在する気液二相流に関する研究

- ・超音速気流粉砕機、および气流分級に関する研究
- ・マイクロブラストに関する研究

- ・角柱周りの気液二相流れの解析、鉛直急縮小管内の気液二相流
- ・マイクロバブルによるエアレーション

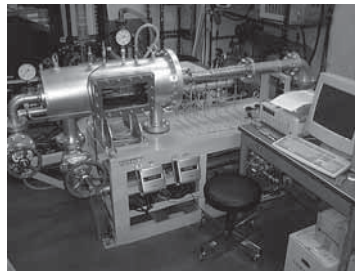
3. 大規模数値シミュレーションによる複雑流動場に関する流動現象解析

直接数値シミュレーション（DNS）を用いた乱流現象の解析に関する研究

- ・自然対流場における大規模渦構造制御
- ・自然噴流の大規模渦構造制御による混合促進手法の開発
- ・衝突噴流における大規模渦構造による伝熱促進機構の解明

設備・備品

Ar ガスレーザー光源／レーザードップラー流速計／熱線流速計／シュリーレン流体可視化装置／サーモグラフィー／高速ビデオカメラ／PIV 装置／点電極ボイド率計／ジェットポンプ性能試験機／粉体の粉砕、分級装置



ジェットポンプ性能試験機

三重大学教育学部

調理学研究室 教授 成田美代
食品学研究室 助教授 磯部由香

<研究課題>

三重県産未利用水産資源・農産物・発酵食品に関する研究

本研究室では、三重県産の食品を中心に、一般成分の分析、食品加工への応用、機能性について検討を行っている。これまでに、三重県産のボラ、モチ性小麦、有色米、ツタンカーメンエンドウ、および熱帯原産の輸入果実であるフェイジョアについて分析を行ってきた。

今年度は、三重県産の新規果実である「アテモヤ」の一般成分分析および抗酸化性について、また、三重県産の発酵食品である「なれずし」の一般成分の分析、微生物相の解析、機能性についての検討を行っている。

<技術指導>

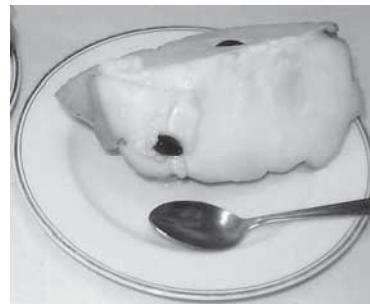
- ・簡易抗酸化性試験
- ・一般成分分析
- ・色に関する分析
- ・微生物相の解析

<設備・備品>

- ・高速液体クロマトグラフ装置
- ・測色色差計
- ・原子分光分析計（有炎）
- ・レオメーター
- ・微生物培養関連装置



さんまずし



アテモヤ

◆ 会員企業紹介 ◆

株式会社 赤福

「伊勢の名物、赤福餅はええじゃないか…」と全国の皆様に親しんで戴いております弊社は、宝永 4 年 (1707) の創業で、数年後に 300 年目を迎えます。その社史の中でもこの 30 余年間は TLO の目的でもあります「起業」の歴史であり、10 社以上のグループ会社が誕生・育って参りました。

今夏で 10 周年を迎える「おかげ横丁」、昨年では約 300 万人の行楽客がいっぱいでした。その横丁内には 40 店舗がございますが、それらを経営しておりますのが(有)伊勢福。また中華レストラン「陶陶(たうたう)」津店・伊勢店とイタリアレストラン「キャンティ」伊勢店を経営しております(株)伊勢壽、赤福餅の折箱を製造しております(有)伊勢祿などがございます。商品名「おにぎりせんべい」「ピケイト」などのスナック菓子製造の(株)マサヤ、社名通りの(株)和菓子の万寿や、(株)お菓子道場ほか海外子会社を含むマサヤグループの各社、焼酎の「ステラ」を始め清酒の「おかげさま」「老緑」を製造販売しております伊勢萬(株)、その他警備会社の伊勢ガードシステム(有)等々がございます。

起業への意欲は益々盛んで、三重 TLO への参画も、ニューシーズの探索が一つの目的でございます。

さて(株)赤福に話を戻しまして、長い歴史の佇まいの本店は、内宮参詣の入口に当る宇治橋から 400m ほど下流に架かる新橋の左岸袂、旧街道と五十鈴川に

挟まれた場所がございます。本社工場は地下水の水質にこだわり、同じ五十鈴川流域の朝熊山麓に昭和 53 年に移転、拡張等を経て現在に至っております。

最近の年間販売数は、12 個入りの折箱に換算しますと約 850 万折、粒数では 1 億粒以上となります。伊勢を中心に名古屋・大阪圏に展開します販売店は、直営・委託店を合せて 300 店舗以上になりますが、日々新鮮な赤福餅が届けられています。合成保存料や脱酸素剤など一切使用しないことにこだわるため、当日生産分を翌日に持ち越して販売することはありません。伝統的な商品へのこだわりの一方で、食の安心・安全確保、環境保全など、新技術への取り組みのためにも三重 TLO に参加させて戴いております。

(本店)



株式会社 百五経済研究所

弊社は百五銀行グループを母胎として、昭和 60 年 7 月に産声をあげました。

以降、「誰からも親しまれる、行動するシンクタンクとして、地元企業の発展を支援し、地域の人材を育てる」ことを目標に活動をして参りました。

主な事業としては、経済・産業動向の調査及び情報提供、経営計画策定・賃金人事制度構築・ISO 取得・経営診断などの経営コンサルティング、各種セミナーの開催、区市町村・商工団体等よりの産業振興・雇用・地域振興などにかかる受託調査などとなっております。小規模ながらもワンストップの総合的経営支援サービスを提供しております。

また、三重県内の中小企業を主な会員とする百五経営情報クラブには約 4 千社が入会いただいております。機関誌 HRI レポート、三重県会社要覧、三重県経済のあらまし、賃金統計ガイド、景況調査といった刊行物の提供、教育ビデオの無料貸出、セミナー割引などのサービスを提供しております。

この 7 月からは、百五経営情報クラブに特別会員制度を設け、ビジネスポータルサイト「Answer105 (アンサーイチマルゴ)」をオープンします。

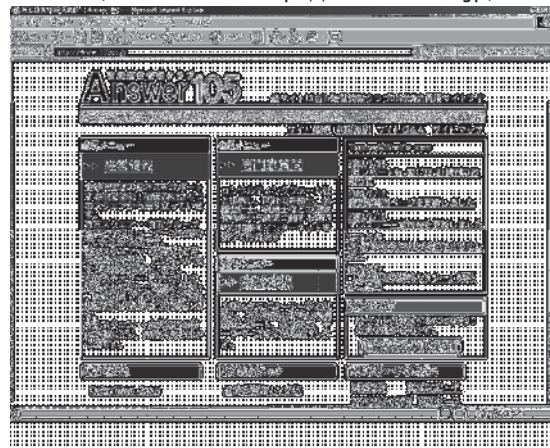
企業経営者の身近なビジネスパートナー・知恵袋となるもので、経営に役立つ産業・経済・市場・法令・海外に関する豊富なレポートやニュースが掲載された経営情報コーナー、ネット上で弁護士、公認会計士、弁理士などの専門家と質問・回答のやりとりを何度でも行える専門家質問コーナー、中国の産

業・経済・法令・ニュースに特化し、現地直送のホットな情報を提供する中国情報コーナー、の 3 つのコーナーからなります。

また、会員交流会・ビジネスマッチング・ビジネススクール・無料特別セミナー・無料 IT 講習といった、リアルなサービスもあわせて提供し、経営者の人的ネットワークの形成、企業の人材育成、経営力強化の支援を行います。

三重 TLO と弊社はこれまでも連携して事業を行ってまいりましたが、今後一層緊密に協力し、地域企業のサポーターとして共に発展して参りたいと考えます。

(Answer105 <http://www.105cs.jp>)



平成 14 年度 産学連携コーディネータ活動経過

(株)三重 T L O 技術管理部長兼産学連携コーディネータ 余川 彬 夫

産学連携コーディネータ（以下、コーディネータと記す）の立場から、現在までの活動を振り返ってみる。

コーディネータは、平成 13 年 2 月から地域共同研究センターに 4 名採用され、活動日は週 1 日であった。その後メンバーの交替もあったが、5 名 {週 5 日、3 日(夫々 1 名)、週 2 日(2 名)週 1 日(1 名)} に増加し、会社設立後は(株)三重 T L O に勤務している。

1. 教官との面談

まず三重大学教官との面談から始めた。その目的は、学のシーズの把握と企業出身のコーディネータが大学を少しでも理解することにあった。

専門に関しては、非常に熱がこもっていて感銘を受けたが、T L O 設立については「非常に期待をしている」から、稀だが「株主にはならない、大学教官の知識とか技術を商売にすることには反対」という意見まであって、コーディネータが憤慨して帰ってくることもあった。平成 13 年度末までの、面談教官数は 130 余名であった。

2. T L O 推進ワーキンググループ会議への参加

6 月初め、センター内に当会議(議長：菅原副学長)が発足、T L O 設立に向けてコーディネータも参加し、本格的作業・検討が始まった。大学内の意思疎通、株主の募集、会員の勧誘等々多くのテーマについて議論された。会議は非常に開かれた感じで、自由に発言をさせていただいた。

3. 会員の勧誘

11 月中頃から会員勧誘活動に入った。菅原副学長等参加の諸協議会や各研究会の名簿、会社年鑑等々から会員候補企業を抽出、副学長名で入会依頼の手紙を約 60 社に送付することから始めた。

12 月 14 日 光精工(株)、(株)松井鉄工所の入会申込みがあり、F A X 受信時刻から光精工(株)が会員第 1 号となった。12 月末の会員数は 6 社であった。

平成 14 年 1 月初めから約 3 ヶ月間、約 80 名の教官を時間の許す限り訪問、入会候補の企業名をあげて頂くことと入会を勧める旨の添え書きを依頼。

2 月 7 日の会社設立時 48 社、4 月 16 日の文科・経産両省の事業承認時 108 社の入会があり目標の 100 社を越えることが出来た。その後、講演会、フェア等での勧誘活動、さらに会員企業からの他企業の紹介、技術相談等を通して平成 15 年 3 月 31 日時点で会員数は 3 公的機関、148 社となった。今後もあらゆる機会を活用し、この活動は継続していきたい。

4. 会員企業訪問

コーディネータの主たる責務は、産・学連携の橋渡しである。学のシーズ把握を先行させたが、入会のお礼も兼ねて産のニーズを掴むために、4 月初めからコーディネータの企業訪問(御用聞き)を開始し

た。しかし、初対面でもあり、各企業のニーズには秘密の部分も多く、抽象的な話で終わる場合もあった。ただ、質問・要望には不十分な内容であっても回答するよう努めた。祝賀会・交流会の開催また会報の発行等も寄与し、徐々にニーズの具体性が増してきていると思う。

9 月中頃からコーディネータも同行し、教官の企業訪問(「教官による御用聞き」という見出しで、日経産業新聞に掲載された)を開始した。コーディネータのみに比較して、ニーズの内容もさらに具体的になったと思う。この活動は、企業・教官両者から評価されており現在 8 社にとどまっているが、さらに拡大していく予定である。

5. 共同・委託研究

3 月 18 日 (株)三重 T L O 事務所に、会員企業インダファーマシー(株)石田剛社長が来社、健康補助食品の臨床試験を医学部内田淳正教授に依頼したい、紹介と橋渡しをという要望あり、ただちに連絡、先生からすぐ来るよう返事があった。先生から面白いという回答あり、その後数回の打合せを経て、7 月 15 日共同研究成約となった。三重 T L O 仲介第 1 号である。その後、平成 14 年度末には 12 件成約し、8 件進行中である。これらの共同研究のいくつかに特許出願が期待され、さらに技術移転への発展を見込んでいる。また、マッチングファンド等への提案・成約・運用についても着実に取り組んでいきたい。

6. 特許流通

特許流通アドバイザー中心に活動している。コーディネータは補助的立場にある。特に、妹尾社長の「平成 15 年度から特許流通に力点を置く」という指示もあり、中・長期的展望を持ちながら、一層協力体制を強め成果を上げていきたい。

7. (株)三重 T L O 交流会の開催・会報の発行

交流会は平成 14 年度 3 回開催された。企画・準備から運用まで、地域共同研究センターリエゾン室の協力を得てコーディネータが中心になって実施してきた。各々の内容については会報の既報および当会報に報告されているので省略する。講演・見学会等の時間配分に反省点があるが、会員等の意見も積極的に取り入れながら改善を図り、より意義ある会にしていきたい。

会報は平成 14 年度 3 回発行。企画・原稿依頼等を担当しているが、今後内容の充実に努めたい。

8. 結語

事業開始後 1 年余を経過、徐々ではあるが軌道に乗りつつある。最重点の経営方針「産・学・官連携を通して、地域産業の活性化に貢献する」に則り、「産・官・学は全てお客様です」という認識で、諸活動を続けていきたい。

営業報告(自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)

I. 営業の概況

事業につきましては、大学等の教員との研究成果に関する連携を深める中で、当年は、特許出願に向けてシーズの発掘に力を注いできました。また、大学等の教員の研究成果を積極的に活用していただくために、企業を対象に登録会員制度を設け、2002年度登録会員への加入の勧誘を開始いたしました。

当年度の収支につきましては、収入面は、会費収入は9,175,990円でした。又、(指導料・共同研究幹旋手数料等)は、1,983,780円・みえメディカル研究会が4,700,000円・広域連携による形成自立型経済圏推進事業が4,794,522円・助成金が6,954,857円で、合計27,609,149円となりました。

支出面は、人件費が5,300,277円、物件費が21,432,352円となり、事業剰余は、876,520円で雑収入が115円あり、税引前剰余が876,635円となり、法人税等は502,250円支払い、当期剰余は374,385円となりました。

当社は、今後も引き続き大学等の教員、企業および関係諸団体と連携を図り、事業の発展に全力を傾注していく所存でございます。

II. 会社の概況

1. 主な事業

大学等における研究成果の産業界への移転に関する事業

2. TLO承認

2002年4月16日文科科学大臣および通商産業大臣から「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」第4条に基づく承認を受けました。

3. 取締役および監査役

氏名	地位	主な職業
妹尾 允史	代表取締役社長	三重大学名誉教授
菅原 庸	取締役	三重大学副学長
徳田 正孝	取締役	三重大学地域共同研究センター長
森田 脩	取締役	三重大学生物資源学部教授
梅尾 良之	取締役	元三重大学客員教授
円城寺英夫	取締役	三重大学客員教授
岡本 一郎	取締役	三重大学生活協同組合専務理事
辻本紳一郎	監査役	百五銀行

損益計算書 (自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日)		貸借対照表 (2003/3/31)	
(円)		本年実績	本年実績
収益	受取手数料 (27,609,149)	I 流動資産	IV 流動負債
費用	人件費 5,300,277	現金 5,000,000	仕入未払金
	消耗品 2,190,483	普通預金 242748 47,766	未払税金 502,250
	減価償却費 384,266	普通預金 242734 0	未払消費税
	水道光熱費 379,616	普通預金 251172 1,937,211	未払費用 5,926,171
	通信交通費 1,514,403	普通預金 253600 3,082,634	
	広報費 4,372,056	郵便局 50,000	預り金 4,262,256
	会議費 1,347,487	定期性預金 8,000,000	出資預り金 5,000,000
	講師謝金 1,908,718	現金預金計 18,117,611	仮受消費税 1,380,399
	調査研究費 8,312,115	未収入金 6,954,000	流動負債計 17,071,076
	諸会費 225,476	立替金 0	
	租税公課 776,610	貯蔵品	V 固定負債
	雑費 21,122	仮払金 0	長期借入金
(費用計)	(26,732,629)	仮払消費税 961,351	固定負債計 0
雑収入 (115)		流動資産計 26,032,962	負債合計 17,071,076
税引前当期利益 876,635		II 固定資産	VI 出資金
法人税等 502,250		1. 有形固定資産	出資金 10,000,000
税引後当期利益 374,385		有形固定資産 758,187	出資金合計 10,000,000
前期繰越損失 △151,353		有形固定資産計 758,187	VII 剰余金
当期未処分利益 223,032		2. 無形固定資産	1. 任意積立金
		電話加入権 66,000	任意積立金1
		無形固定資産計 66,000	任意積立金2
		3. その他固定資産	任意積立金3
		関係団体出資金	任意積立金計 0
		長期前払費用	2. 当期末処分剰余金
		その他固形資産計 0	前期繰越剰余金 ▲151,353
		固定資産合計 824,187	当期剰余金 374,385
		III 繰延資産	当期末処分剰余金 223,032
		創業費等 436,959	剰余金合計 223,032
		繰延資産合計 436,959	資本及び剰余金 10,223,032
		資産合計 27,294,108	負債及び資本合計 27,294,108

平成15年度 第3回TLO交流会を開催（3月17日）

三重TLO発足以来約1年となった3月17日、平成15年度最後の表記交流会が三重大学にて開催された。会員企業から68人、株主などTLO参加大学の関係者36人の計104人の多さを数えて盛会裏に終了した。おもな内容はつぎのとおり。

1. 見学会（参加62名）

三重大学工学部、生物資源学部、遺伝子実験施設を見学。4コースに別れて最先端の研究の状況と設備、分析装置を見学させていただいた。普段目にするものがない、領域の研究をつぶさに見、説明を受けて大いに刺激を受けた1日であった。

【工学部鶴岡研究室：文章画像の認識、画像通信】

郵便番号読取りなど身近なところにも応用されている文字認識、表形式文書のデジタル化、遠隔授業（動画像解析）、医療現場などへの画像処理技術の応用について説明を受けた。

見学者の中には火災報知器、盗難防止機器の開発に応用できそうなので、早速実用化を検討してはなどの意見も出て、インパクトあり好評であった。

【工学部大田研究室：環境/分析化学】

ダイオキシンを分析する最新設備を見学させていただいた。各種の金属類が含有されている材料を燃焼させた場合に、有毒なダイオキシンの発生量が大きく影響されることが説明され、興味深かった。

【生物資源学部：水族生理学研究室】

魚類の摂餌行動を元にした自動給餌システムの構築過程を解説いただいた。

会員からは、魚種による違い、環境条件の差異などの質問があった。

【生物資源学部：水族病理学研究室】

アコヤガイの病原や実際に現在進められている病理標本作成のプロセスを見学した。

【生物資源学部：浅海増殖学研究室】

シジミ貝の遺伝的解析結果の説明を受けた。

アコヤガイ等の有用種の作出について質問あり。いずれも三重県南部の重要産業の基礎を支える技

術であり、関心の高さが目立った。

[遺伝子実験設備：植物分子生物学、分子生物額]

植物の種子形成のメカニズムなどの最先端の研究の状況と設備を見学した。

遺伝子関連の研究対象である植物の現物を見て、大変印象深かった。



（研究室見学）

2. 講演会

矢谷学長のご挨拶と妹尾三重TLO社長の間年活動報告の後、三重大学医学部整形外科 内田淳正教授の講演があった。

- ・矢谷学長：産官学が連携してTLOのますますの発展を期待
- ・妹尾社長：増資予定者含め190人が出資。資本金を1500万円とする見込み。

TLO保有特許は27件となった。

- ・内田教授：テーマは”高齢者の関節と骨の痛みについて”。65歳以上の高齢になると足骨の内側がつぶれる、靭帯が緩んで変形する、軟骨が擦り減って来るなどの理由で、痛みを感じるようになる。（変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症、大腿骨頸部骨折、関節リュウマチなど）これらの疫学調査結果、手術技術の発展状況、グルコサンの予防効果研究状況などについて多数の写真で明確に分かりやすく講演され、興味深く拝聴した。



(講演会)

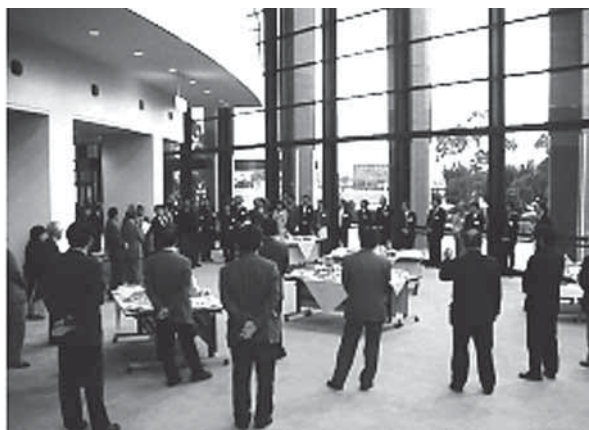
3. 産学協同研究の事例発表

- ①インダファーマシー石田剛社長が”慢性関節リウマチ患者 QOL 向上のためのグルコサミンの応用”について報告された。
- ②テック大洋工業 鳥潟社長が”打ち込み式高機能基礎の研究”(公園施設などに利用)について報告をされた。

4. その他

産学連携学会創設についてのご説明(三重大学地域共同研究センター 菅原副センター長)と懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で活発な情報交換がおこなわれた。

第2年度もTLO活動によりさらに多くの実績があがることを期待する。



(パーティー)

平成15年度みえメディカル研究会総会を開催

三重県が目指しているメディカルバレー構想(医療・健康・福祉産業の創出と集積)推進事業の一環として、「平成15年度みえメディカル研究会総会」が6月2日に三重大学(三重県津市)で開催された。

みえメディカル研究会は昨年度設立され、三重県と(株)三重TLOが協働して運営している。当日は、産学官民の関係者約150名が参加し、昨年度の活動報告と今年度の活動計画案が提案された。また、(株)メディビック代表取締役社長橋本易周氏が自ら経営する大学発民間ベンチャーを事例に取り上げ「ベンチャー企業の役割について」、三重大学医学部教授・生命科学支援センター長 鈴木宏治氏が「三重大学の産学官連携の取り組みについて」講演を行った。

研究会は昨年の7分科会から今年は10分科会に拡充され、会員数は700名を超え、三重県外からも多数の会員が参加している。

昨年度は、この研究会を契機に大学等と企業間での共同研究が多数実施されるなどの成果を生み出すとともに、地域におけるネットワーク組織として着実に成長をしている。

今後の三重県における産学官民連携と研究開発・技術開発の促進が期待される。



(講演会)

三重TLOの技術移転および特許情報

三重TLOからの出願特許は、この1年で26件となり、その技術移転状況は下表に示します様にパイオ関係を主として展開しています。

三重TLOの技術移転概況（H15. 6. 18現在）

	出願数	技術移転状況		
		実施許諾	オプション契約	秘密保持契約
建築・機械	3			
環境・エネルギー	5		1	
IT・ソフトウェア	7		1	1
医薬・バイオ	11	1	1	2
合計	26	1	3	3

三重TLOの出願特許の概要（H15. 1. 1～H15. 6. 18）

分類	「名称」（出願日）	用途
建築	「簡易基礎」（H15. 3. 24）	施工現場に大型の機械を持ち込むことなく、容易に組立て、撤去が可能で、公園等の工事に適用される
機械	「形状記憶合金製鋳造部材／製造方法」（H15. 5. 23）	鋳造・熱処理して得られるNi-Ti合金で、歯科医療、骨折治療、センサー等に用いられる
IT関係	「電波吸収体」（H15. 2. 10） 「文字認識エンジン」	携帯電話や無線LAN用電磁波吸収材 文字認識用ソフトウェア
環境エネルギー	「バイオマス変換式ガス発生装置」（H15. 2. 20） 「風力発電装置」（H15. 4. 4） 「容器入り液体の攪拌方法／装置」（H15. 3. 5）	バイオガス発電炉のエア導入機構 小型風力発電装置における過回転防止機構 局在させた超音波振動を液体に与え、温度の均一化を容易に行え、急速冷却／加温が容易となる
医薬	「血管障害病態改善剤」（H15. 1. 24） 「スーパーオキシドアニオン試薬」（15. 2. 10、PCT出願） 「ハイブリドーマの製造方法およびその利用」（H15. 3. 6） 「細胞治療用材料および血管内治療方法」（H15. 3. 20）	くも膜下出血等の脳血管障害用医薬品 活性酸素を効率よく検出する試薬 極微量の環境ホルモンを迅速・高感度に検出するモノクローナル抗体。生体外で免疫した細胞を細胞融合して、所定の抗体産生ハイブリドーマを製造 動脈瘤等の血管内病変に対し、血栓化／血栓の器質化を促進する細胞および血管内治療方法
バイオ	「幼若ホルモン関連化合物のスクリーニング方法」（15. 3. 24） 「医用画像処理方法」（15. 4. 16） 「血液浄化用吸着材／IgA腎症治療法」（15. 4. 28） 「胚の操作方法」（15. 5. 16）	特定の幼若ホルモンを昆虫に与え、内分泌系を攪乱することにより、殺虫剤として作用させる 新規なフィルタバンクを用いて、異常陰影を精度良く区別可能とする。マンモグラム等の診断に最適 IgAと特異的に結合するジャカリン誘導体を用いた血液浄化用吸着材 ゼブラフィッシュ胚を用いて、環境ホルモンの影響／医薬品の副作用のスクリーニングに使用する

お問い合わせ等は、下記までお願い致します。

(株) 三重TLO 技術移転部長 黒淵達史 e-mail:kurobuchi-ad@adp.jiii.or.jp

Tel 059-231-9822 Fax 059-231-9743

【行事等案内】

電気工学科「社会人向けリカレント教育講座」

日時：平成15年7月25日(金) 9:00～16:10

場所：三重大学工学部大会議室及び電機システム研究室

申込先：三重大学工学部庶務係（期限：7月24日(木)）

三重TLO会報次号発行は10月末、交流会次回開催は11月末の予定です。
内容についてのご要望、ご意見をぜひお寄せください。

特許流通フェア中部2003(仮)

主催：特許庁・中部経済産業局

日時：平成15年10月8日(水)～10日(金)

場所：名古屋市中企業振興会館 吹上ホール

三重TLO

〒514-8507 三重県津市上浜町1515

三重大学地域共同研究センター内

TEL : 059-231-9822 (059-231-9763)

Fax : 059-231-9829

E-mail : mie-tlo@zvtv.ne.jp

http : //www.mie-tlo.co.jp